

学年通信 PART2

3C 学级号, No 4.

日常の生活の中にある思い出
を大切にしている。障子破ったのが
近藤君だ、たゞさうして思い出した。

山川 雄司
中学生のこの三年間は、勉強もしむくつにはいけなかつたけど、それ以上に樂しかつたです。反対も下くさん増えたし、先生たちも樂し

先生にも怒られるようになり、成績も下がりました。が、毎日がとても楽しかったです。二年生の時の修学旅行など、リラリ行事があり、とてもおもしろかったです。しかし、行事の時がくるといつものように泣くもまた。修学旅行で

修学旅行の班も僕たちは同じになった。一日目の旅館がものすごく楽しかった。班の全員がほとんど寝ます。いろいろな事をして一夜を過ごした。

時の修学旅行など、いろいろ行事があり、とてもおもしろかったのです。しかし、行事の時がくるといつものようにならうもまた、修学旅行で障子を破ったのも、その一つです。先生に怒られるとどうすることも一矢ことによつて思ひ出が根強く永遠に残るのだと思ひます。

松長秀樹
あれ、早く卒業へだい。板高りって伸ちゃんといふし
にサッカーして日本へにほりたり。帝立や武南、國
見、北陽、帝京、四中工を倒して高校卒業後、
讃壳クラブに入りたり。火殺ハイ
キックボクシングへだてを身につけて

A black and white line drawing of a young girl with short hair, wearing a school uniform consisting of a collared shirt and a pleated skirt. She has a large smile and her arms are raised high above her head, with small flower-like shapes at the ends of her fingers, suggesting excitement or triumph.

大西美紀

A decorative illustration of a cluster of flowers, possibly tulips or lilies, with long, slender petals and dark centers. The flowers are arranged in a circular, overlapping pattern.

ります。よく考えると中学
校を卒業すると、もう働く
ことができます。ほんだけ信じ
られません。卒業してもこんな事を一つの恩返
り出として残しておいて、また頑張っていき
たいです。

阿部 恵裏子

私は、この三年間でたくさんの友達ができました。みんなおもしろい友達ばかりで、毎日学校へ来るのがとても楽しかったです。それに仁木先生も、とてもおもしろい先生に三年間もりじめてもう、私は本当にうれしいです。

校へ来るのがとても楽しかったです。それに仁木先生ヒロウ、とてもおもしろい先生に三年間もりじめでもらえて私は本当にうれしいです。
それから、この三年間樂い事や悲しい事が

たくさんあったんですけど、やれも一つの恩り出ヒして、
すっとすっと忘れないようにしておきます。そして、
高校が離れてしまう友達の事も、先生
の事も絶対忘れません。

近藤
章雄

た時は真面目で、先生に教わったことがあ

△組のM・I君を筆頭として、いろいろはなしをしてきた。特に、僕のところに残っているのは、

「集団泥棒」。あの頃は、ものすごく面白かった。学校に来るのが楽しかった。



緒のクラスだった稻佐さんのことなど、とても印象に残っています。友を一人もくしたことで、明るかた教室が少し暗くなりました。まだまだ行事がたくさんありましたが、体育祭や文化祭もとても楽しかったです。

一年間、本当にいろいろお仕事がありました。たくさん友達もできましたし、文化祭で初めて劇にも出ました。一月二月はテストが多くて「しんどい」と思つた時もありましたが、そもそも二つの想い出にあります。三年間を通してみると、一体私は何をやってたんだ?

樹井千春

△組のM・I君を筆頭として、いろいろ行事をしてきた。特に、農の日

事にて、お詫び下さいしてお見送りました毎日
だったと思います。一年の先生はとても真面目で

先生で一、二、三年の先生はユニークでおもしろい先生でした。あの明るく、樂々気持ちは、高校にいっても忘れないでいたいです。

板中3年 3月2日(月) 303号

303学級告 No.6.

5枚の約束にのこすか6枚か
なつてしましました。
次は、どのクラスが勝てるかな?

これまでをふり返り、部活動のことより振り返り、今僕は思った。少一笑了。今までのことで自分で成功したこと失敗した思い出を思ひ浮かべただけで笑顔がこみあつた。あだだからでもうあつてこれだ。3年間、ちよつとさやーー「もう有りがするけれど。大切な3年間。

聞。これから的人生の中にはがまとうけてるからわからず、けりか、大切に反対とつくった。今までの心大切にして「おだい」。大切に反のために、今の自分のために。

両部 美和

中学校で見たものは少しだ。でも多くの少しだりものの中でも一番のものは多分反対だと思う。あたり前のことだけど、小学校の頃よりは少しえんえだと思う。やはりは多分がいいかもしないが、反対だとと思う。でも、ほかにかうまくはいかない。丁寧かもーーーまう。うまくいった反対とうまくいかなかつた反対とでは、どちらが、反対なくてあからばい。けど、今一番わかるのは、反対がいてよかだばどうこと。のよう気がする。

杉内 隆之

の三年間で学園会のことが心に残りました。特に剣山の一泊宿泊が面白かったです。剣山に登るのは少し苦しかったです。帰りはリフトで下りて、そこにはじけて、雨が降っていたのですね。おもづきました。4月には乗くながれです。学園会について厳しかったと思うことは、食場に行く道のりです。特に冬は雪が降るものでしょ。でも学力をあげるために粗野強く通したいと思います。



原田佳世子

手足など、しかもつくりがんばった。
3月の行事がありました。

3年生はテストが多くてやりました。
C組は毎日給食あります。

先生までしていやいそと。(吉岡)
が自分で頑張ったつもりです。

つまづきと恩い出ばかりがこみあける。

もつといだす機会が学校に。(甲島)

。いろいろは思ひ出しつづかることで

区のしかつたな。三年間。(山川)

身のまわり見つめろればどこへ

友達がいて先生がいて。(市川)

精一杯に生きくらむ。(竹谷)

掃除時間 子の間に色オニ 下水道

むちくち遊んだ武道館裏(奥谷)

春夏と月日はめぐり今になり

言いたくないな。さよならだけは(井谷)

。部活動楽しくできた部活動

思ひ出だせる三年間だ(谷口)

(付録) エコしてのまごとアゲント

で思つたら一日あそび

恩い出は 何を残らす(寒川良太)

もつと給食食べたらよかったです(長井)

水口君が「集団泥棒」と書いてあるをおもしろい配しました。

いつも給食残ったとき職員室にとりにきていたのです。

先生と一緒に給食をとりあって、どうかに書かれていました。

お黙りいたら、あだなされました。どうもおか

真相? やれども最後まですわがく

けたまことにありました。



(藤井 キ)

学年通信 楽の年 PART2

3年B組 学級号

N°1

山を走えて

森口 錠司

間に過ぎ去つてしましました。あゆみでしかわからない感動だけ、自分が輝けたと思う。これからも思い出をいっぱいいくつくりたいです。

新野 勝啓

△卒業式 みんな泣くかもしないな

友だちがたくさんできました。いろいろなことがあってとても楽しかった。心に残っているのは、3年生の時全国の道德教育研究大会に出たことです。みんなで一生懸命に語り合った時間とても楽になりました。一つの目標に向かってがんばったことが、心に残っています。最初は3年B組になつたことが少し不安でした。2年の時は違つて友だちが少なくなりました。だけどそのぶん友だちがたくさんできました。3年B組になって本当によかったです。

※ 湯原 健二

井上 浩司

△卒業式 みんな泣くかもしないな

「3年B組の絆」と記して終わつた全道研、「ナイン」の学習がなかっし。今も授業後の拍手、みんなが退場する時に再びわざわざこつた拍手が、目を開じると聞こえてくる。この「ライン」や「水平社宣讃歌」など、みんなと繰り返し繰り返し取り組んだ一つ一つの資料が大切なものになつていて。

私はこの一年、がむしゃらに頑張ってきた。苦しみながら必死に峰を越え続けた一年であった。私自身この一年の取り組みが、これから的人生の大きな支えとなつていくと思う。

最後に「ねりん」3B号として、3B一人一人の思いと、3年生になって一番最初に取り組んだ詩『峰』の授業記録をまとめてみた。このからの人生においても、この『峰』の詩を生きる支えとしてくれればと思う。

※

赤澤 達夫

△忘れない一生一度の全道研

中学校3年間の生活は、とても楽しく苦しいものでした。部活動や修学旅行や体育祭、文化祭などいろいろなことがありました。このような行事などから、今まで気付いていなかつたことや、知らなかつたことなどたくさんのことを探りました。

でももう一步といふと、県大会にいけなかつたけど、みんなと本気で戦つたのがよかつたです。勉強の方はあまりよくなかったけど、後半よくがんばれたのでよかつたと思いました。いっぱいいいこともあつたけど、悪いこともあります。それもふくめて全部忘れないようにして、これから的人生をがんばっていきたいです。

△思い出を一杯くれた中学校

井上 浩司

今までとてもいい思い出がたくさんできたと思います。部活ではもう一步といふと、県大会にいけなかつたけど、みんなと本気で戦つたのがよかつたです。勉強の方はあまりよくなかったけど、後半よくがんばれたのでよかつたと思いました。

いつまでもいいこともあつたけど、悪いこともあります。それもふくめて全部忘れないようにして、これから的人生をがんばっていきたいです。それと最後に3年B組の幹を忘れないようにして、これから的人生をがんばっていきたいです。

※

△思ひ出を一杯くれた中学校

久保 耕一郎

△どうせなら楽しく過ごす春がいい

中学校3年間の生活は、とても楽しく苦しいものでした。部活動や修学旅行や体育祭、文化祭などいろいろなことがありました。このような行事などから、今まで気付いていなかつたことや、知らなかつたことなどたくさんのことを探りました。

3年間で学んだことをすべてこれから的生活、高校についてか

らの生活に生かしていきたいと思います。

※

△寒い日の小春日より卒業式

岡本 芳興

△寒い日の小春日より卒業式

3年間の思い出といえはやっぱり柔道だったと思います。3年間の真は、船体の1ヶ月前、腰の痛いのを我慢しての練習でとても苦しました。でも県総体で優勝できたのでとてもうれしかつたです。

高校にいったらレスリングをがんばりたいと思います。

※

△寝起き クラス見るなり 最悪だ

中川 一之

△寝起き クラス見るなり 最悪だ

3年間続けてきた部活動も終わり、ほつとしています。2年

の時は船体に出れなかつたけど、3年になつて、船体に出ることができます。余りうまくなかつたけど、出たからすごくうれしかつたです。そして、県の船体にも出られたから、とてももうれしかつたです。

※

△寝起き いまあける新世界

仲田 宏二

△寝起き いまあける新世界

中学校生活は楽しいものでした。部活もおもしろかつたし、友だちと一緒に遊んだりしてとても楽しかつたです。いろいろな人に刺激を受けながら、自分が成長できたよう思います。

バレーボールの大会や、同和教育の大会、そして、修学旅行と、興奮したり緊張したり、ふざけ合つたりしたことが心に残っています。みんな待ち遠しかつたものばかりだったのにあつという

※

△寝起き いまあける新世界

久保 耕一郎

△寝起き いまあける新世界

中学校では多くのことを学びました。部活動は、3年間それぞれ違う先生のものでがんばり、1年生の時は1年生の思い出というように、毎年雰囲気が変わり3年間とても楽しくでき、自分自身いろいろな面で強くなれたと思います。また、同和問題にみんなで取り組んだことは、貴重な体験であり、板野中学校だからあそこまで盛り上がつたと思います。

中学校でてきたことを語りに思ひ、高校での新しい生活に役立てていきたいです。

※

△寝起き いまあける新世界

中川 一之

△寝起き いまあける新世界

この頃成績も上がってきましたから、このまま入試を受けて、中

1年間を振り返つて思うことは3年B組はある時は明るく楽しく、ある時は真剣なクラスだったと思う。

※

中学校生活は楽しいものでした。部活もおもしろかつたし、友だちと一緒に遊んだりしてとても楽しかつたです。いろいろな人に刺激を受けながら、自分が成長できたよう思います。

バレーボールの大会や、同和教育の大会、そして、修学旅行と、興奮したり緊張したり、ふざけ合つたりしたことが心に残っています。みんな待ち遠しかつたものばかりだったのにあつという

※

△寝起き いまあける新世界

仲田 宏二

△寝起き いまあける新世界

中学校生活は楽しいものでした。部活もおもしろかつたし、友だちと一緒に遊んだりしてとても楽しかつたです。いろいろな人に刺激を受けながら、自分が成長できたよう思います。

バレーボールの大会や、同和教育の大会、そして、修学旅行と、興奮したり緊張したり、ふざけ合つたりしたことが心に残っています。みんな待ち遠しかつたものばかりだったのにあつという

※

304

学年通信 わくわく PART2

3年B組 漢字号

No.3

春 3月3日(水) 306号

てきたいが成長したのではないかなと思います。
 ※

『笑いあり 泣もあった 3年間』
 駄の裏に ふとよみがえる』

この3年間は私にとって笑いもあり、悲しみもありの3年間でした。そんな中で心に残っている思いでは、たくさんあります。中学校に入つて初めてやった部活動、同和問題学習での全体会議や研究大会、みんなで協力してがんばった板中祭、まだまだいっぱいあります。

こんな思い出から私は、周りのみんなから本当にたくさんのことを学びました。やっぱり友だちのことが一番です。これらもずっと友だちを大切に、自分もがんばっていきたいです。

※

井上 由加

『たくさん 笑顔と思い出 ありがとう』

3年間でたくさん思い出ができたと思います。中学生活に希望を抱きやがってきた頃がついこの間のような気がします。いろいろなことがあり、楽しいことばかりではありませんでしたが、今になってみれば、悩んだりしたこと、みんな思い出になつたと思います。私が思つていた以上の中学生活になり、友だちや先生方に感謝したい気持ちです。このたくさんの思い出に胸にしつかりと焼き付け、高校に行つてもがんばりたいと思います。悲しくて逃げ出しそうになつた時でも、中学校のことと思い出してがんばりたいと思います。

みんなよい思い出をありがとうございました。

国原 志乃

『またいか きっと会えるはずだから』

涙は見せない 笑つてバイバイ』

中学での思い出を話すのに部活のことを答ることはできませんでした。なんだかんだいいながらも、仲がよくて最高だった陸上のみんなが大好きでした。だから自分の成績以上に、みんながんばった頬伝などの方が、喜びもくやしさも大きかったです。』

高校に行つたら、みんな離れ離れです。でも、一緒にいるんな壁を乗り越えていた仲間たち、絶対忘ることはないとおもいます。

※

福井 美音

『毎日が 春陽だった 3年間』

太田 美紀

※

太田 美紀

中学校の3年間はあつといいう間に終わってしまいました。3年生になつて本気で考えさせられた同和問題は、友だちの本当の気持ちがよくわかつて本当の友だちができて、自分が大人になつたように思います。

この3年間は短かっただけれど、友だちがたくさん増えて、小学校の時よりもすうといい関係でいられたので、高校へ行つても、中学校の時のように、同和問題の学習やいろいろなことをいっしょに乗り越えていける友だち関係をつくっていきたいです。

※

大森 恵子

『感謝の ひとときは 思い出に』

3年間振り返つてみて、一番心に残つたことは陸上をしていました。学校にきても陸上をやつているときがとても楽しかつたです。練習はきびしかつたけど、一回一回の試合に行くことがとても楽しみになり励みになりました。中学校で心に残つたことはあと少し記録を伸ばしかつたことです。陸上をやっていてよい友だちをつくれたことが、一番心に残つています。それから同和問題学習ではとてもすばらしい授業ができたので、それを励みに勉強もがんばっていきたいと思いました。

※

岡本 人美

『3年間の思い出が たくさんつまつた中学校生活』

私の中学校3年間の一冊の思い出は、富田中学校で行われた道徳教育の全国大会でした。あの時はすごく緊張していたと思います。あの全国大会の授業はとてもすばらしかつたと思います。

全国大会の日、一〇月三日は3年B組全体の思い出になつていると思います。この授業をしたことは青葉校に行つても絶対に忘れるこことはないと思います。私はあのとき、たくさんの先生が見ている中でとても緊張していました。でもその緊張に打

ち勝つて手を挙げることができました。時間の関係で発表することができませんでしたが、手を挙げることができたことがするこくられしかつたです。あのたくさんの人の見ている中で、ただつているだけではなく手を挙げることができたんだというこ

とをこれから的生活の自信としてがんばっていきたいと思います。

※

小川 一恵

『富田中学校 とても印象深く そして輝いた』

小川 一恵

※

小川 一恵

今まで運動や勉強に少しずつがんばつてきました。特に勉強は、精一杯にがんばつきました。私は嫌いな教科もあつたけど、始めのうちは先生に質問に行くことも全くありませんでした。でも3年になつてやつと勇気が出てきて、先生にわかるないところを質問にくがができます。

がつてたよう思います。本当によかつたなあと思います。そして嫌いな教科を行つても頑張らでいいみたいと思いまます。これからももっととがんばつていきます。

『夢を持ち 新たな道へ 進んで行こう』

3年間あつといいう間でした。この3年間でたくさんのことを学ぶことができました。特に同和問題の学習では2年生からの取り組みの中で、自分でも驚くほど成長してきたと思います。友だちや先生方のおかげです。本当に感謝したいです。

※

加藤 千穂

『おもしろい B組みんな 友との絆は 永遠に…』

義務教育9年間の中でも、最高のメンバーに囲まれて卒業できることって、すごい幸せものだと思う。一緒に支え合つてきた仲間、開つてきた仲間と別れるのはとても悲しいけど、出会いがあるから別れがある。別れがあるから出会いもあるのではないだろうか。また新しい仲間を見つけていくことが、卒業してか

学年通信

PART 2

3年B組 洋級号

No.4

らの私たちに与えられた運命かもしれない。
そして、忘れないことが、一つでも多い方が幸せだと思
う。もしそれが悲しいことだとしてお…。

※

楠本 順子

『人知らずとも 己の心 滑く仄く』

『信頼という糸をいつまでも』

3年間長いようでとても短かったです。この3年間でいろいろなことを学んだように思います。部活では友だちと協力すること、勝った時の喜びを教わりました。3年になって友だちの大切さをあらためて実感しました。自分自身この3年間でいくつもの声を越えてきたと想います。これから高校入試という大きな壁にさしかかるうとしています。この壁を越えられるよう今の時間を大切にしていきます。

※

齊藤 良子

『思い出を 心の底に しまっておこう』

中学生生活の思い出の中で心に残っていることはたくさんあるのだけど、その中で一番心に残っているのは、やっぱり同和問題の学習でした。部研や金道研など、大きな大会を経験できることを語りています。

部活動では、良い成績は残せなかつたけど、みんなと協力するということを教えてられたような気がします。よい友だちにも出会えることができ、充実した生活を送ることのできた3年間だったと思います。

※

佐々木 恵

『たくさんのかかえきれない思い出を 私にくれた 中学校』

『あの頃は ほんとの気持ち 言えなくて 苦笑いした 遺い思い出』
3年間なんて長いようだけど、短かったように思います。入学してからの3年間は、ほんとにいい友だちもいっぱいできたし、私にとって大切な3年間だったと思います。いろんなことがあったけど、この3Bというクラスになれてよかつたと思います。先生は、2年生のままでがつかりしたけど、それでも3Bによかつたなあと今は思っています。3Bだからできることってやっぱりあったから、このクラスになれた

こと、すごく晴ります。
『部同研の 热き思いを いつまでも』
3年間の思い出をいつまでも忘れないでいたい
この3年間は、いろいろなことがありました。その中で一番心に残っているのは、文化祭と道徳教育の全国大会でした。文化祭は見ているだけで笑えてきて、とても楽しい文化祭となりました。全国大会ではみんなが団結してとてもいい授業ができると思います。
この3年間の思い出を、いつまでも大切に胸の奥にしまっておきたいと思います。

※

中山 幸子

『思い出を 心につめて 卒業』

中学生活の一番の思い出はみんながんばって取り組んだ同和問題学習です。公開授業をやったり、その他にもいろいろとしました。だけど私は、みんなの熱い心の叫びが一番心に残っています。

一人一人が、本当の意見を出し合ながら、信頼を得ることができたと思います。私にとってそのことが少しづつできたことが、何よりうれしいです。これからもみんなと一緒に頑張れただいうことを語りに思つて、いろいろな面で頑張りたいです。

※

扶川 小織

『思い出を 心につめて 卒業』

3年間で一番の思い出は、やっぱり同和問題学習です。特に2年頃から力を入れてやつていました。また、3年では大きな大会もしました。

かつて2年の時はしんどいと思っていましたけど、3年になつてから、真剣に取り組むようになりました。あんまり発表とかはしなかつたけど、一回手を挙げて自分の思いを打ち明けると、スープとするし、自分の思いがみんなに伝わるような気がします。この同和問題学習が一番心に残っています。

きれない。受験が近いのにユニコーンのコンサートにいったのも思ひ出です。高校生になつても絶対忘れんと思ひます。

※

永峰 ゆか

『部同研の 热き思いを いつまでも』

あつという間の3年間、いろんなことがあったけど、いい思い出になつたと思います。その気持ちを鉛筆にしてみました。

『3年間 どうもお世話になりました。』

※

土内 恵子

『思い出を 心につめて 卒業』

木村中3年3月3日(火) 30号

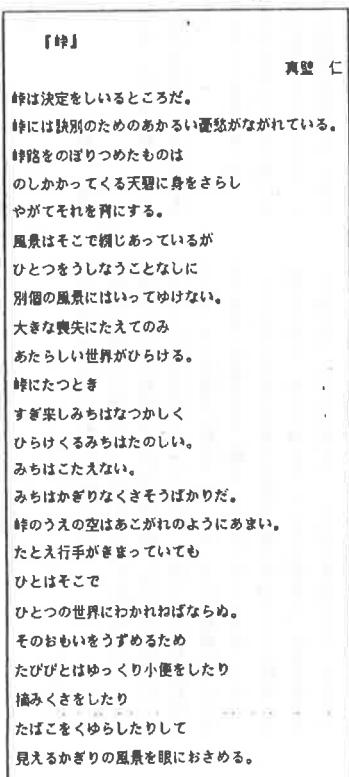
3年B組 学級号

No.5

峰を越えて

資料 詩「峰」(真壁 仁) 1991年4月21日(日)

T: 「峰」という詩を3年生一番最初の参観授業に選びました。この詩については3年生になったときに先生自身が思うことをいろいろ話したんですけど、3年生になったときの気持ちや今の気持ちをこの詩と今一度重ねてみて、みんな自身がそれぞれに思うことを語り合いたいと思います。今一度この「峰」の詩をみんなと味わってみたいと思います。



T: もう3年生になって2週間近くが過ぎました。3年生のスタート、この詩を味わってみて、みんなの心の中にはどんな思いがこみ上げてきましたか。僕はこう思うんだ、私はこう思うんだという部分ができるだけ多くの人に語ってほしいと思います。

井上(男)「峰」を読んで、何か自分に欠けていたものが見えてきたような気がします。僕の中にはどうしても昔はよかったなあという思いが残って、今を大切に努力すること忘れがちになります。この詩は次の目標に向かって「あたらしい世界」に入り、でも頑張っていこうとアドバイスしてくれたような気がします。

T: 今の井上君の思いにつなげて発表してください。

井上(女)この詩を初めて読んだ3年生になったばかりの頃は、結構2年生のクラスが好きだった、3年生になって不安だったんです。向か2年生のときあれだけいいクラスができたのに、3年生になってどんなクラスになるんだろうと思ったけど、この詩を読んでいくうちにやっぱり自分でも頑張っていかなあかんと思って、私自身が頑張っていくことによって、3年生のクラスも

今まで以上にすばらしいものにしていくことができるんだという勇気づけを、この詩はしてくれているみたいです。

T: はい、ありがとうございます。鬼を重ねてまいりましょう。手を上げて発表するのと、ただ当てられて発表するのでは全然違う。みんなの主体的な行動でこの慣習を盛り上げていきましょう。

姫田(男)峰に登ったら、昔のことが見えてきて、その中には過去の過ちとか、そんなものが見えてきて、これからもっと頑張っていかなあかなあという感じがしてきます。

村山(男)この「峰」の詩は2年生のときも学習したと思います。2年生のときにはいろいろなことがあって、いやになったこともたくさんあったけど、いつもこの詩によって何というか勇気づけられて、何となくだけどこの峰みたいなものを越えてこれたような気がします。峰に登ると歩いてきた道を振り返ることもできるし、これから先の未来のこととかを考えることができます。過去にあったいやなこととか、間違ったこととかを峰に立つ度に、バネとして頑張っていかなければいいなと思います。

T: 村山君が読んだ「峰」の詩ですね。一人一人の思いにみんなの思いをつなげていきましょう。

濱原(男)感じのとてもいい詩だなと思っていたんですが、はじめはなかなか意味がつかめませんでした。峰を僕たちのこれから的人生にたとえているんだなあと思います。

T: 私自身が思うことですけど、私はこの詩と出会ってもう10年近くになります。毎年、ある時期がくるとこの詩を思い出し、生活のいろんな場面で励まされてきた詩なんです。この詩全体に寄せて、みんなはどのような感じを持ちましたか。

福井(女)峰というものは私たちの心の中にもたくさんあって、その峰を越えていくたびに私たちは強くなっているんだと思います。それで、その峰を登りつめたとき、自分はこれからどうなっていくのか、今までの自分を通してからの自分を考えていらっしゃいました。

T: 私にとって最も心が痛いたのは、「ひとつをうしなうことなしに、別個の風景にはいっていけない。大きな喪失にたえてのみ、あたらしい世界がひらける。」というところです。何人かの人が2年生から3年生に学年が進んだことと、この詩を重ねて発表してくれましたけど、今一度「大きな喪失にたえてのみ、あたらしい世界が開ける。」という場面と、今みんなが3年B組という新しいクラスに出会ったことと重ねて思うことを出し合いたいと思います。

中山(女)私は2年生のときも森口先生の担任でした。とても仲のよい子が何人かいて、はっきり言って3年になってばらばらになることがいやでした。けれど3年になってまだ少ししかたっていないけど、こんなわずかな期間なのに伸びよくなった子がいっぱいいます。2年生のクラスがばらばらになって、3年生のクラスができた。「ひとつをうしなうことなしに、別個の風景にはいっていけない。」というのはこういうことだと思います。

T: 今の中山さんの思いにつなげてください。

佐々木(女)私も中山さんの意見に似ているけど、私も中学2年のときに仲よくなった友だちと別れてしまったけど、このクラスにも仲のよい友だちがいて、このクラスでも何か新しいものが見つけられたらしいのになあと思います。

久保(男)2年生のクラスは楽しかったけど、その分また友だちとかと別れるのはつらかったです。だけど3年生ではまた新しい友だちとかに会うことができてよかったです。

新野(男)僕も久保君によく似ていて、2年生のときはとても楽しくて、友だちもたくさんいたけど、今はばらばらになってちょっと残念に思います。

T: みんないろいろな思いを引きずっていると思います。お互いの思いを確かめ合いたいと思います。つなげてください。

森川(男)みんなとよく似ていて、2年生のときにはいっしょのクラスになれて、

木戸中3年3月3日(火)304号

3年B組 学級号

NO.6

楽しくやれてきた友だちと別れて3年生になったけど、また新しい友だちができるので嬉しいと思っています。

高麗(女)みんなが新しいクラスでスタートを切ったけど、2年生とのきとはまた違う雰囲気になったけど、みんな頑張っていけると思います。

楠本(女)新しいクラスになって、仲のよい友だちともいっしょになれなかつたけど、自分自身これから3年B組の中で、いろいろな子と友だちにならうと思います。そして自分のことを打ち明けられるような友だちをつくっていきたいと思います。

中羽(男)ぼくは2年B組で森口先生といっしょのクラスで勉強してきたけど、いろいろ周りの子に迷惑をかけてきて、先生にもいろいろ迷惑をかけてきたけど、その度に森口先生が励ましてくれて、その度に新しい世界が開けて頑張ってこれたように思います。

T10 これからも新しい世界を開いていくように頑張っていこうな。

井上(女)何か大入りた言い方になるけど、八箇というのは誰かに迷惑をかけて生きているように思うんです。中羽君が迷惑をかけてきたというけど、私もものすごく迷惑をかけて生きてきたと思うんです。ほんけん、今度は人が迷惑をかけたんとか力をバーバーできるような良いクラスにしたいなあと思います。

T11 今、中羽君と井上さんが言うてくれたけど、八箇というのはお互い迷惑をかけたり、支え合ったりして生きていると思うんです。毎日の生活中でんどいときがあります。今までの生活中においても苦しかったことが数限りなくありました。そのときがきたらいつも思うのが、「今が峰じゃ、ここで頑張らないかんのじゃ」という思いと、「あいつも頑張っている、あの子も頑張っている」という仲間への思いなんです。みんなはどうでしょうか。

加藤(女)私は2年のときの友だちと、ものすごく仲がよかつて最初いやだったけど、今はこのクラスでよかったと思うようになりました。

太田(女)私も新しいクラスに変わった最初のときは、2年生のときの方がよかつたと思ったときもあったけど、今は友だちもできだし、毎日楽しく学校にきているので、前のクラス以上に仲よくなれたらいいのになあと思いました。

T12 どうしても八箇というのは過去を引きずります。私自身もやっぱり過去を引きずり続けてきました。中学校に入学した頃、おやまの大将でいた小学校時代にもどりたいと思い続けていたように思います。今度中学を卒業して、高校に進学したらしく、柔道に自分の生活すべてをぶつけてきた中学時代がすばらしかったように見えてきて、高校での生活に打ち込めなかつたことを思い出します。八箇には今まで歩んできた道の方がよかつたように見えてきて、人生の峰を越えていくことがなかなかできない弱さがあると思うんです。高校から大学へ進んだときも同じような思いがあったと思います。そして、大学を卒業して就職したときもそうだったと思います。当時を振り返るとまさしく「峰」の詩そのもののように思えます。「大きな喪失にたえてのみ、あららしい世界がひらける。」今までの人生のすべてが峰であり、その一日一日がひたむきに峰を越えていく瞬間であったと思います。そして、これから的人生も人生の峰をしっかりと越えながら、八箇として成長していくんだなと思うんです。この「峰」の詩と出会ってそのことを思うようになりました。そして、今の生活、新しい生活を精一杯頑張ることが、昔かわかった友だち、かつて出会った友だちを大切にしていくことにつながっていくように思っています。私は今しみじみと思います。中学時代、高校時代、大学時代、それぞれの時代に出会い青春という時代を共に謳歌した仲間の存在をより輝いたものにしていくために、私の今の生活を生命の限り、精一杯生きなければならない。そんなことを思っています。

T13 一生懸命峰を登りつめて旅人は、峰に立ったところで次のような行動をとっています。「たびびとはゆっくり小便をしたり、痛みをさましたり、たばこをくらしたりして、見えるかぎりの風景を眼におさめる。」今まで苦労して歩いてきた中学2年生のクラス、その中で本当に楽しいことがあったし、嬉しいこともあった。その思いを今じっくり峰の上に立ってか

みしめる。心穏やかに今までのこと今までの道のりをかみしめる。じっくりと考える。そして、今までの道のりや一つ一つの場面を自分の心にしっかりと焼き付けていく。真歯をかみしめかみしめ頑張ってきた今までの思いを捨てるのではない。今まで頑張ってきた思いを峰の上にじっくりとかみしめていく。そしてこれから道のり、この中学3年という大きな峰に向かって歩んでいく。今中学2年と中学3年の両方が見える峰の上に、新たな道のりを精一杯に頑張っていくという思いを込める。そして、これから的生活、今の生活を頑張っていく。そのことを最後の4行に寄せていつまも思ってきました。どうでしょうか。みんなはどのように感じたでしょうか。みんなの思いを語り合いましょう。

中羽(男)その旅人は、今の僕たちよく似ていると思います。それはこれから僕らは高校受験という大きな峰がある。だから今まで学んできたことをもう一度ゆっくり振り返り、これから生き方を考えていきたいと思います。

中山(女)やっぱりそれぞの場面に別れがあると思います。それはとてもつらいことだと思います。この旅人も、その風景から別れなければならない。だから旅人は少しでも長くその風景といっしょにいたいから、いろんなことをして見える限りの風景を目をおさめているんだと思います。

T14 今の二人の思いにつなげてみてください。みんなが思うことを自由に語り合える。そんな雰囲気を大切にしていただきたいと思うんです。

井上(女)私もみんなが言ったことと同じなんですけど、人生にはそのときどきに苦労や悲しみがあって、いろんな場面でその苦労や悲しみがバネになっていき、八箇としてたくましくなっていくと思います。ほんけん、旅人も登ったことに意義があると思うし、私たちも頑張っていくことに意義があるんだと思います。

T15 峰の上で今まで頑張ってきた思いをかみしめる。そしてこれから道のりも新たに頑張っていくんだという決意をしていく。「峰は決定をしいる」というこの決意とは、決意するという感じがしますね。どうでしょうか。

村山(男)旅人は峰の上に立って、その周りに見える風景を見おさめていたと思います。その周りの風景を見おさめるということは、峰に立てば過去のこと、今まで歩んできた道のりを見つめ直すことができ、これから先の道のりを頑張っていくバネになっていくと思います。だから、この峰に立つことは大事だけど、八箇としてとても大切なことなんだと思います。

井上(女)峰に立ったら、また別の峰も見えると思うんです。そのとき旅人は、頂上に立つことはこんなによいことがあるのかと思い、今まで登ってきてよかったですと思って、少しの間はその喜びに浸っていてくださいと思うんです。でもその峰から次の峰が見えてきて、今度はより大きな喜びやさわやかさを求めて次の峰を目指して歩いていくようになります。結局人生も同じで一つの喜びをつかんだら、その喜びをより大きくするためにまた頑張っていく。生きるということは、ずっと喜びを求めて峰を登り続けることなんだと思うんです。

中山(女)私も井上さんとよく似ていて、峰を登るときは過去のことは見えるけど、未来のことは見えないと思うんです。でも峰を登り始めたときは過去も未来もその両方が見えてくると思うんです。そして、峰を下るときは未来は見えるけど過去は見えなくなっていくと思います。やっぱり峰の上というのは、過去と未来という両方の風景が見える。過去と未来の両方の風景が重なっているところなんだと思います。また峰に登ったとき未来が見えてくると同時にいくつの峰が見えてきて、旅人もやっぱり頂上で今度はあの峰に向けて頑張ろうと決意していくんだと思います。

T16 私にとってこの詩は新しいことが始まっていたときに、心の中で頻度も幾度も反覆してきた詩です。私の結婚式のとき披露宴の最後の挨拶のときも、この「峰」の詩についての思いをしみじみと語りました。この詩は私の生活すべてに染み込んでいます。この「峰」の詩、この中には2年生のときも学生の始めに勉強したという人も何人かいいると思います。中学2年で読んだ

学年通信 *ねくじゅく* PART2

春・春・春・春・春・春・春・春・春・春・春
木戸中3年 3月3日(火) 10時

3年B組 漢文易

No.7

「峰」の詩と、中学3年で説んだ「峰」の詩と、2年生での1年間の流れを振り返ってみんなは、どんなことを思いますか。また、今年初めてこの詩と出会った人、中学3年という人生の大好きな峰に差し掛かる自分の思いと、この詩に込められて願いを重ねてどのようなことを思いますか。今中学3年生のスタートラインに立った自分と、この「峰」の詩を重ねて思うこと、この「峰」の詩が自分に訴えるもの、みんな自身に向いかけるものをこの学習のまとめとして語り合いたいと思います。

井上(女) 私は根性がないから、峰に登っていくことはものすごくしないと思うんです。私一人だったら登れないかもしれないと思うんです。でもみんなで励まし合ったり支え合ったりして登っていくだら、どんなに険しい峰であっても、みんなで楽しく笑顔で登っていくと思うんです。みんなで声を掛け合って頑張っていくことによって、どんなに険しい峰もなんだか平坦な道のりのように感じていけると思うんです。そして、その峰に登って、今度はその峰を下っていくとき、下りの道は楽だから自分一人たたかたたか行きそうで、そしたら今度の新しい峰のとき、また一人になってしまふから、どんなときでもみんなでいろいろな思いを語り合って励まし合いながら、この1年間頑張っていきたいと思うんです。

中山(女) この「峰」の詩は2年生のときにも学習したけど、とても奥深いものがこの詩の中には流れているように思います。読む人それぞれの感じ方が違うので嬉しいと思いました。この「峰」の詩を読んで自分を振り返ると、思い当たることがたくさんあります。私たちはこれから的人生を生きていく中で、いくつもの峰を越えていかなければならぬだと思います。私は今までにそんな大きな峰を越えたことがないけど、これから先いくつもの峰が待ち構えていると思うから、頑張ってこつこつと一つ一つの峰を登っていきたいと思います。それときっと井上さんが、何か自分は根性なしと言っていたけど、私は井上さんはそんなことはないと思う。やっぱりみんなをまとめる力があるし、いっしょにおおっても楽しいから、井上さんはすごいなあと思います。

井上(男) 僕はちょっと感想が違うんだけど、頂上は登っていくときは、そこにいくという同じ目標があるけど、下るときはそれぞれ違う道があつて一人一人違う道を下っていくように思います。みんなで励まし合って頂上に立ったとき、みんな一人一人の新しい道を開いてくるとおもうんです。その一人一人にあった道をしっかりと見つけて、みんなが励まし合って一人一人の人生を精一杯生きていかなければならぬんだと思います。

T17 みんなの心の中に響く「峰」の詩の一節があると思います。みんなの思いを語り合って、この詩に寄せる思いを深めていきたいと思います。

村山(男) 2年生のときも「峰」の詩を説んだけど、そのときは意味がはっきりつかめなかつたけど、段々とこの詩についての思いは深まってきたように思います。そして、そのときそのときによって、この「峰」の詩についての想像も変わってきたように思います。この中学3年には僕たちの今までの人生で最大の峰が待ち構えていると思います。この峰を自分の力で乗り越えられればと思っています。

井上(女) みんなのいろんな意見から思つたんだけど、同じ峰でも自分の気持ちはによって、この峰はしんどいと思つたり、またこの峰は楽しいと思つたりするから、どっちみち一度しかない人生なんだから、楽しいと思いながら登つていいかといふうです。だから人生はどんなときでも自分の気持ちしだいで、やりがいを感じることができたり、婚々になつたりしていくと思うんです。私は何でも物事の考え方を良い方に考えていくといふとい、自分で自分を励ましながら頑張っていきたいと思います。

小川(女) この「峰」の詩を読んで、この1年が私にとってとても大切な1年なんだと思つてきました。私たちの前には高校入試という大きな峰が待つてるので、その峰に向かって一日一日を精一杯歩いていくんだという気持ちで勉強していきたいと思います。

T18 この1年を見つめて思うこと、みんなの思いを重ねていきましょう。

藤田(男) 最後の旅入みたいに、やっぱり苦しんで登った峰だから、そんなさわやかな満足感が込み上げてくると思います。だからこれから進んでいく道のりにとつても、今まで頑張ってきたことは大きな力になっていくと思うから、僕たちも受験という大きな峰を控えたときだから、もっともっと大きな力をつけていくために、これから的生活を頑張っていきたいと思います。

井上(男) やっぱり峰というのはつらいけど、つらいことがあるから楽しいことも見えてくると思います。部活動でもつらい練習を頑張って耐えていくから、勝った喜びが最高のものになっていくんだと思います。苦労しながらも頑張り抜くからこそ、楽しさや喜びが生まれてくるんだと思います。

T19 今の井上君の発言につだけ言葉を添えてみます。これは佐藤文彦先生からいただいた言葉です。私たちは苦しいことや悲しいこと、人はさまざまな状況の中で生きていると思います。佐藤先生はこう言われました。「一人の仲間の悲しみをみんなで分担し合っていく。一人の仲間の喜びをみんなで大きな喜びにしていく。」部活動の話を井上君が、今、出してくれました。私は中学時代よりずっと柔道をしてきました。投げたり投げられたり、本当に厳しい練習に明け暮れた時代があります。「いつやめようか、いつやめようか」と思った頃もありました。でも決してやめることはなかった。どうしてか。仲間がいたからです。声を掛け合ひ、励まし合つた仲間がいたから、厳しくつらい練習を頑張ってこれたと思うんです。仲間という存在は不思議です。本来苦しいはずのことが、仲間の励ましの中で頑張っていけば、いつしかほのぼのとした喜びや楽しみに変えてくれます。人生とはそんなものでないだろうかと思つたりします。

井上(女) 井上君の意見を聞いていて思ったんだけど、峰というのは私たちの生活しているところに例えたら、峰を登つていく道のりの途中には人家があると思うんです。峰を登つていて苦しくなつたら、その人家でずっと休みたいという気持ちは起こつてくると思うんです。でもその人家でずっと休んでいたら、今度は段々と弱い心が起つてきて無理して峰や登らんでもいいといふ気持ちが起つてくると思うんです。その弱い心に負けて人家にずっといたら、峰の頂上に何があるのか、峰の上にどんな世界が開いているのかも知らない今まで一生が終わつっていくと思うんです。人間にはどんな困難なことであつても、どんな苦しいことであつても、前向きに頑張つていくチャレンジ精神というものが必要であり、頑張り抜くことによって本当の喜びをつかむことができるということを、井上君は言ってくれたように思います。

中山(女) 井上君がさっき峰を登るときは、みんなで頑張って励まし合いながらいっしょに登つていいけど、降りるときはそれぞれの道を降りていくようになると言つたけど、みんなそれぞれの道を降りたとしても、やっぱり先に大きな峰を見つたら、また願いを同じように持つ仲間と力を合わせて、励まし合つて登るようになつていくんだなあと思つました。

井上(男) どんなときも人間は、力を合わせて生きていくことが必要なんだけど、やっぱり自分がどのような峰に向かつて進んでいくかの決断をくだすのは自分で、自分の道むべき道をしっかりと決定するという強い意思があるからこそ、人は励まし合つたり支え合つて頑張り抜くことができるようになるんだと思います。

T20 みんながそれぞれにとらえた「峰」の詩を大切にしていきたい。この1年みんなはさまざまな思いの中で繰り続けるだろう。そのときにこの「峰」の詩を何度も何度も読み返してほしい。いや、この1年だけではない。これから的人生においてさまざまな困難な状況に立つことがあろう。そのときいつも心の中でこの「峰」の詩の一節が浮かんでくる。みんなにとってそんな「峰」の詩であつてほしい。そして、今日語り合つたこと、3年生になつての一一番最初の道徳の時間に、「峰」の詩を学びみんなの思いを出し合つたこと。本当に大事にしていきたい。時間が過ぎてしまったけど、これからもっともっとみんなの熱い思いを語り合う授業、みんなでつくりあげていきましょう。終わります。